令和3年度

施政方針

安心して幸せに暮らせるまちづくり

広島県神石高原町

令和３年度　施政方針

令和３年度，神石高原町一般会計及び特別会計並びに，病院事業会計の当初予算案を提出するにあたり，その概要と町政運営に対する私の所信を申し述べ，町民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

昨年１１月２２日，合併後５回目となる神石高原町長選挙が執行されました。合併時の選挙以来１６年ぶりとなる選挙戦となりました。

この選挙は，今までの４年間の取組，そしてこれからのまちづくりについての評価，期待などが争点だったと思っています。私は，現職として，４年間「誰もが挑戦できるまち，本当に住んで良かったと実感できる神石高原町」を創造する事に邁進してきました。「挑戦」と言うキーワードが果たしてこの過疎化，高齢化が進む町になじむのかと言うこと。また，２期目に向けての具体的な取組についての町民の思いを問う。そういった選挙ではなかったかと振り返っています。

その全てについて信任を得たとは思いませんが，１期４年間，取

組んできたこと，また，これからの神石高原町のまちづくりの方向性については，多くの町民に賛同いただけたと思っています。

そこで，そのスタートとなる令和３年度に重点的に取り組むこと，その裏付けとなる予算編成にあたり私の思いをお伝えさせていただきます。

まず，第１に優先しなければならないことは，新型コロナウイルス感染症対策です。ご承知のとおり，昨年の春ごろから全国的に感染が拡大し，社会生活や地域経済において甚大な影響を及ぼしました。本町においては，町民の皆様のご協力，ご努力により現段階でも感染者の確認はありません。これは素晴らしいことです。感染者が出ていないことは勿論ですが，こういった危機的状況に町民が思いを一つにし，同じ方向を向いて取組ができる。神石高原町にはそういった「力」があるという事です。この事は内外に誇れる事例の一つではないでしょうか。

しかしながら，本町でも，社会生活や地域経済への影響から逃れることは出来ませんでした。甚大な被害を受けています。町として，企業，事業所への状況調査，個人商店等へのヒアリングを行いながら，対策を講じてきました。この危機的状況の中，町職員が一丸と

なり「とにかく早く」を合言葉にそれぞれの立場で支援策を実行してきました。

町としては，感染が確認された当初から大きく３本の対策を柱として取り組みを進めてきています。１つ目は感染防止対策，２つ目は社会生活の維持，３つ目は地域経済の維持です。この中でも最優先に取り組んだことが地域経済対策です。企業，事業所の経営を継続して頂く，また町にとっても重要な雇用を維持していただく事を優先し，給付金制度を創設し緊急的な支援を行ってきました。この迅速な対応は小規模事業者，個人事業者の方々の力になったのではと思っています。

夏になり，一旦は収束の兆しも見えましたが，秋口から年末年始にかけ第３波の大きな波が日本全土を襲いました。本町においても，国の第３次補正予算等を有効に活用し，必要があれば単独町費も財源としながら，様々な対策に迅速に取り組んでまいる所存です。

公務以外でも職員が自主的に，売り上げの落ち込んだ飲食店の支援として，昼の弁当の注文を取りまとめ，売り上げ増に協力してくれました。いわゆる町内の飲食店にエールを送る「神石高原エール飯」です。町内の飲食店に数回ずつ注文し，２ヶ月ほどで約１，５

００食，１００万円余りの売上支援をしてくれました。

議員各位におかれましても緊急的な補正予算，条例改正など今まで同様，ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

次に，これからの神石高原町のまちづくりについてです。

コロナの収束については，その時がいつ来るのか私も予測できません。巷では，ワクチンが行き渡り，治療方法が確立されて今のインフルエンザ程度になるまで，数年はかかるだろうとも言われています。そういった状況ですから，当面はコロナ禍における行政，自治体運営，まちづくりを進めていかなければなりません。

コロナ禍にありながらも本町の未来を創造する，未来を創っていくために今必要なことは何か。やるべきことは何か。それは大きく２つあると考えました。その一つは，協働のまちづくりです。これは普遍的な町の取り組みです。神石高原町が誕生した時，町民全員で確認したまちづくりの基本条例「神石高原町人と自然が輝くまちづくり条例」第３章の基本原則に謳われています。

私はいつも協働について，私が考える協働の理念を申しあげています。それは，「積極的な役割分担と相互支援」です。これからのま

ちづくりは，正に条例のとおりでそれぞれが主体的に取り組む中で，お互いを補完することが求められています。それが協働のまちづくりです。行政主体の時代はもう終わりました。行政運営，自治体全体の運営，活性化など町を構成するすべての団体，場面でこの協働と言う考え方，仕組みが必要となっています。その協働をスピード感を持って進めること。それが，未来を創造するために必要な事の一つ目です。

二つ目は，新技術の活用です。コロナ禍という社会も後押しをしていますが，デジタル化，新技術の活用が急速に進行しています。国もデジタル庁を新設し，あらゆる分野において新技術の活用を加速させてきます。ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）という言葉をお聞きになられたこともあると思います。デジタル技術を活用することによって，社会が豊かになる，生活が便利になることを総称した言葉です。現に，本町においてもほぼコンピュータと言える，スマートフォンが普及し多くの高齢者も，利用されています。このスマートフォンを使って様々な取り組み，仕組みが開発されています。

例えば，コロナ対策として，ポイント還元をしているペイペイな

ども，現金を持ち歩かなくても支払いが出来る電子決済と言う仕組みです。コロナ禍において接触を避けるという点でも，この電子決済システムは急速に普及しています。これは東京など大都市だけで起きている事ではありません。私たちが住む神石高原町においてもその環境（生活環境）を直接変えていく，変化させていくことが多くの分野で進んできます。

本町においても，と言うより逆に本町のような過疎化，高齢化の進んだ町だからこそ，その新しい技術を活用する。また，ここが先進地になるくらいの取り組みを構築していく事が，今の神石高原町に求められていると思っています。デジタル化を含め，新技術の活用・推進が，神石高原町の未来を創る取り組みの二つ目です。

この２つの重要な取り組みを積極的に推進する部署として，まちづくり推進課を創造的に改編し「未来創造課」を新設するため，本定例会で役場組織の改編にかかる条例改正案を提案申し上げます。

以上，新年度にあたっての，私の思いをお伝えさせていただきました。

当初予算の具体的な内容について，申し上げる前に，町民の皆様にご心配をおかけしております，４月から始まる新型コロナウイル

ス感染症へのワクチン接種について，お知らせさせて頂きます。

町民の皆様へ接種のスケジュールや手続を，今月の中旬には連絡させていただく予定です。皆様が安心してワクチン接種が出来るように，関係機関と協力し，各会場で集団接種シミュレーション（模擬訓練）を行うなど鋭意準備を進めています。町民の皆様には，安全でスムーズなワクチン接種となるよう，最後までご協力を賜りますようにお願いを申し上げます。

なお，何か不都合なことや不明な点があれば，お気軽に担当までご連絡ください。

それでは，当初予算の具体的な内容について，申し上げます。

昨年１月から始まった，新型コロナウイルス感染症。２回の緊急事態宣言の発出や都道府県独自の移動の自粛要請などで，県内はもとより国内，全世界で甚大な影響を及ぼしています。製造業をはじめ飲食，小売りなど全業種で事業所によっては大幅な減収減益となっています。東京オリンピックさえも１年延期となりましたが，この夏の開催も危ぶむ声がある事は周知のところです。

世界では，ロックダウンなど強い措置が実施されている国もあり

ます。順次，ワクチン接種も始まっていますが，未だコロナへの戦いが続いている状況です。

世界最大の感染国となった，アメリカ合衆国ですが，バイデン新アメリカ大統領は就任早々，コロナ対策として２００兆円を超える経済対策を打ちだし，早期の感染防止対策や経済の立て直しに取り組んでいます。

日本国政府も，早期のワクチン接種に全力を傾注し取り組んでいます。そこで国の令和３年度当初予算は，ウイズコロナ，脱コロナを強力に推し進めるため，過去最大の１０６兆円余りの予算を編成しました。特に，コロナの状況に柔軟に対応するため，予備費を５兆円余りも計上するなど過去に例のない予算編成となっております。コロナに打ち勝ち，経済の好循環を取り戻すための強い意志を感じています。

広島県では，一般会計で１兆９３８億円（前年比０．３％増）で３年連続１兆円を超える大型予算となっています。知事は，「厳しい時だからこそ，チャレンジ精神でコロナを乗り切り，次代に備える」と令和３年度予算を説明しています。

具体的には，新型コロナウイルス感染症への対応。平成３０年７

月豪雨災害の創造的復興や「次代への備え」として，ＤＸ（デジタルトランスフォーメーション）をてこに，コロナ後を見据えた取り組みを推進する予算になっています。特に，多くの問題を抱える中山間地域重視の姿勢も伺えます。

　そのような状況の中，本町は，先に申し上げた考え方を基本に，令和３年度における「人と自然が輝く高原のまち」神石高原町を創造する予算として，

　「安心　幸せ　更なる挑戦」を念頭に編成しました。具体的には，安心して暮らせることが，幸せをもたらす。皆が羨む幸せな地域社会に向け，誰もが更に前進する事が，安心で幸せな神石高原町づくりになるものと信じています。

　その中でも特に，３つの最重要施策と３点の重点的事項を具体化しています。

　最重要施策として，１つは，「持続可能な農林業，商工業の振興」。２つ目に「特色ある教育と文化の振興」，そして「未病」への取組です。これは，入江町政２期目を通して，検討し着実に実施していきたいと考えているものです。従って直ぐに事業展開できるもの，そ

の手法や事業化をどう構築していくべきか，検討する必要があるものもありますが，一歩ずつ進めてまいります。

まず,「持続可能な農林業，商工業の振興」です。具体的には,「生業」としての農業の再生のため，協議会を設置し具体策を検討してまいります。土地利用型の農業が成立しにくい，本町の農業や農業従事者, 農地をどう考え, 未来へどう引き継いでいくべきなのか,「生業」としての農業とそれ以外の農業をどう考えるべきか，どういった農地を維持していくのか，農業経営者をどう育成確保していくべきか等です。

今，本町が抱える農業を取り巻く種々の問題を，農業関係者だけでなく, いろいろな方々の意見を伺いながら, 検討してまいります。

また，森林環境譲与税や各種事業を活用し，豊かな森林を後世に引き継ぐために，町内の林業経営体と連携しながら森林整備を進めるとともに，林業関係者の雇用の確保・創出，人材育成を図ってまいります。

豊かな自然をどう持続可能なものにしていくか？　町民皆で再考していく時期が来ているのではと思っています。

更に社会全体で，女性が活躍できる環境づくりが求められています。特に，本町の産業界には，女性が活躍できる環境が是非とも必要だと考えています。国も第５次男女共同参画基本計画の中で，２０３０年代には，誰もが性別を意識することなく活躍でき，指導的地位にある人々の性別に偏りがないような社会となる事を目指す。そのための通過点として，２０２０年代の可能な限り早期に指導的地位に占める女性の割合が３０％程度となるよう目指して取組を進めるとしています。

商工会や法人会とも連携し，この取組を進めてまいります。

今，町内の産業界全体に人材不足が見受けられます。技術革新を進めてもなお，人材の確保は欠かせません。昨年度，国が，人口急減地域における地域の担い手確保の取組を推進する目的で，新しく事業化した，特定事業組合について，町内でどう取り組めるか，人材不足へどう対応できるか，しっかりと検討してまいります。

次に，「特色ある教育と文化の振興」です。未来を創る若者の育成は，この町の未来を左右します。その意味で，教育や文化の振興は重要です。本物を見て・聞いて・体験できる教育，記憶に残る教育を推進します。具体的には，中高生で実施している短期留学制度の

枠をさらに拡大し，多くの子ども達が，留学体験が出来る環境を作ります。また，今以上に児童生徒の体験活動が出来るよう，学校を支援してまいります。また，そういった経験は，子供たちそれぞれの将来への財産となります。未来を担う子供たちの可能性を可能な限り拡大していきます。

また，本町には，貴重な文化財や芸術文化に造詣の深い方々が，多数おられます。町民の方が誰でも，文化に触れる，文化人に学ぶことができる環境。それが，ひいては教養を高めることになると思っています。どう取り組めるか，しっかりと検討してまいります。

また，「町の子どもは，町のみんなで育てる」という考え方のもとに，地元に帰ってきやすい仕組みとして，町民の皆さんと協力して，町独自の奨学金支援制度を創設してまいります。

次に，「未病」への取組です。未病とは「病気ではないが，健康でもない状態」を言います。いわゆる病気になる前に健康な状態に戻す，と言う考え方です。この未病の考え方を取り入れた健康づくりを検討します。高齢化が一層進む本町では，健康的で自立した生活が出来る「健康寿命」を延ばす事を誰もが切望しています。

そのために様々な先進技術や健康食品が開発されています。デジ

タル技術等を活用し，病気になる前に，その根を断つ。予防対策と未病への取組で，健康で安心できる生活を追及してまいります。

私は，今回の選挙で，町民の皆様へ，「安心して幸せに暮らせるまちづくり」と併せて今までの 4 年間で訴えてきた「８つの挑戦」をもう一歩深化させていくという事を訴えてまいりました。その中で重点的に実施していくべき施策として，

「安心して暮らせるまちづくり」，「幸せに暮らせるまちづくり」「８つの挑戦の更なる進化」を掲げています。

令和３年度予算では，「安心して暮らせるまちづくり」では，平成３０年７月豪雨災害からの完全復旧と復興，また，昨年度，多額の寄付を頂いた，こばたけ保育所の整備に取組みます。

「幸せに暮らせるまちづくり」では，高齢者の事故防止対策に取り組みます。高齢者に関わる痛ましい交通事故が，連日報道されています。

自分の意思で，いつまでも自由に活動がしたいと考えておられる高齢者は，多くおられます。そこで，具体的には，交通安全に重点を置き，安全サポートカーや一人乗り電動カーの導入支援を行いま

す。

また社会貢献施設の誘致活動や，組織化して５年を経過した，協働支援センターの活動など，協働のまちづくりの更なる進化を進めてまいります。

「８つの挑戦の更なる進化」では，町が保有する多くの財産，基金の運用などを一層進め自主財源の確保に努めます。コロナ後の観光事情をしっかりと見定め，令和３年度に観光振興計画を策定します。本町には，国定公園帝釈峡や観音堂遺跡，辰の口古墳，仙養ヶ原など多くの景勝地が存在します。観光資源をどう生かしていくか，将来を見据えた観光振興計画を策定してまいります。

また，既に令和２年度から始まっている，「第２期まちひとしごと創生総合戦略～安心幸せプラン 2024～」に，令和３年度は本格的に取り組んでまいります。第１期では，結果として５年間で△２１３人（年平均△４２人）の転出超過となりました。それ以前の５年間では，△３７２人（年平均△７４人）でしたので，若干転出人口の減少傾向を示しました。

「一定の成果はあった」。と評価を頂きましたが，依然，転出超過

の状況は変わっていないのが現状です。

コロナの時代で，いわゆる「密」を避ける生活が日常となる中にあっては，人口減少で過疎化が進展する地方は，今まさに絶好のチャンスです。開会中の国会においては，新過疎法の議論が行われています。単に過疎過密の議論でなく，このチャンスにどう取り組むか。まさに，今が，この町の行く末を決定する分岐点になると思っています。

安心幸せプラン 2024 が描く社会，そこは住んでいる人々が幸せを感じなから生活している社会です。その社会を見ている人々が，その姿を羨み，「神石って良いね」「住んでみたいね」「住みたいね」。と思われる，言ってもらえる神石高原町を創造するために，必要な事業費を予算に反映しています。

その内容を具体的に申し上げます。

「子育てがしやすいまちづくりと将来を担う人材づくり」，では，子どもの居場所づくりや病後児保育への取組など。

「若い世代が働きたくなる職場や環境づくり」では，企業誘致活動を一層推進し職場確保に取組むことや，空き家バンクを通じた住宅の斡旋など。

「交流人口の拡大への取組」では，ふるさと縁プロジェクトや広報活動の強化など。

「快適な日常生活が送れるまちづくりの推進」では，デジタル放送設備の強化やふれあいタクシーをはじめとする生活交通対策事業などに取組んでまいります。

その他，多くの事業に積極的に取組み，令和６年度までに転入転出人口の均衡を実現させ，「ふるさとを誇りに思う人が集まり，自然と暮らしが共存するまち」神石高原町の創造を推進してまいります。

更に，平成２９年度から防災や医療の拠点として取り組んでまいりました，新庁舎及び新病院が，令和３年度から相次いで完成します。庁舎は本年１０月頃から稼働します。また，病院は来年５月の開院予定です。それぞれ本稼働に向けしっかり準備を進めてまいります。町民の皆様の安心と安全に大いに寄与してくれるものと期待しています。

その他，高齢者対策や介護や障害者対策についても，引き続きしっかりと取り組んでまいります。

以上，最重要施策や重点的事項を盛り込み，

令和３年度当初予算として一般会計１２０億円。

前年度対比△４．４％（△５億５千万円）を計上いたしました。

この財源として，町税は，昨年度より若干少ない９億２千万円余。地方交付税を前年度と同額の４５億４千万円。町債は昨年度よりも約５億円多い２５億８千万円余。繰入金も２億６千万円多い１３億１千万円（その内，財政調整基金から５億２千万円（前年比５％金額にして３千万円増）を繰入れています）を見込んでおります。町債と繰入金を前年度より多く計上しておりますが，これは，庁舎病院建設事業が本格化するためであります。

また国及び県支出金は災害復旧事業の完了地区が増えたことで，前年度よりも大幅に減額（△１４．４億円）した１１億８千万円余りを計上しました。

歳出を，目的別に特徴的な費目を見てみると

衛生費が，前年度比７５％増の２５億円余。これは，病院建設に係る病院事業会計補助金の増によるものです。

農林水産業費は，前年度比△２２％の７億１千万円。階見地区のトマト団地の造成工事が完了したことによる予算減。

土木費は前年度比７８％増の５億７千万円余。これは社会資本整備や道路や橋梁の強靭化対策を予算化したことによります。

その他の費目は，前年並みの計上となりました。

また，特別会計では，特に，簡易水道事業特別会計は，前年度比２９％増の３億２千万円余。これは，高蓋，西油木，安田下，臂政・野地区の簡易水道事業に係る予算計上によるものです。

農業集落排水事業特別会計では，前年度比△１４％減の２億４千万円余を計上しました。これは，中央監視装置の整備が終了したことにより減額予算となりました。

病院事業会計では，新町立病院の建築等に２７億２千９百万円余を計上しました。

以上，一般会計１２０億円。（前年比△４．４％）

８特別会計３９億２千７百５５万円（前年比３．６％）

病院事業会計２７億２千９百４０万円（前年比１９２％）

合計１８６億５千６９５万円（前年比８．０％）です。

庁舎，病院の建設等で昨年度と同様，過去最大規模の予算編成となりました。以上が令和３年度当初予算の概要とその考え方です。

職員が一丸となって，町民の皆さんにとって「神石高原町に住んで良かった」と実感していただける，まちづくりに向け，丁寧で，迅速かつ確実な事業執行に努めてまいる所存です。どうかご理解を

賜りますようお願い申し上げます。

日本時間の１月２１日未明，アメリカ第４６代大統領に，ジョー・バイデン氏が就任しました。バイデン氏は，就任演説で「今日はアメリカの日であり，民主主義の日だ。分断は深く現実のものだ。私は国民と国家の結束に全身全霊を尽くす。すべての国民に加わってほしい。」と訴えました。

更に，新型コロナウイルス感染症にふれ「恐怖ではなく希望。分断ではなく結束。暗闇ではなく光の物語をともに紡ごう。」とも呼びかけました。

今，神石高原町を取り巻く環境は過疎化，少子化等厳しい状況にあります。特に新型コロナウイルス感染症は，今も予断を許しません。そんな今，新大統領ジョー・バイデン氏の言葉を私の立場に置き換えると「私は，神石高原町民の結束に全身全霊を尽くす。すべての町民に加わってほしい。町民全員で思いを一つにし，この難局を乗り越えていく。」私は，その先頭に立つ。これは私の使命であり神石高原町の力強い未来のために，必ずやり遂げなければならないと思っています。

３０年先，いや半世紀先の，神石高原町に住む人たちに「大正，

昭和，平成，令和を生きた先人たちは，本当にいい町を作ってくれた。」と言われる神石高原町を，今を生きるみんなで創って行こうではありませんか。

町民の皆さん，共に歩んで参りましょう。

以上が令和３年度施政方針です。議員各位におかれましては活発なご議論を頂き，ご可決賜りますようお願い申し上げます。

ご清聴ありがとうございました。